

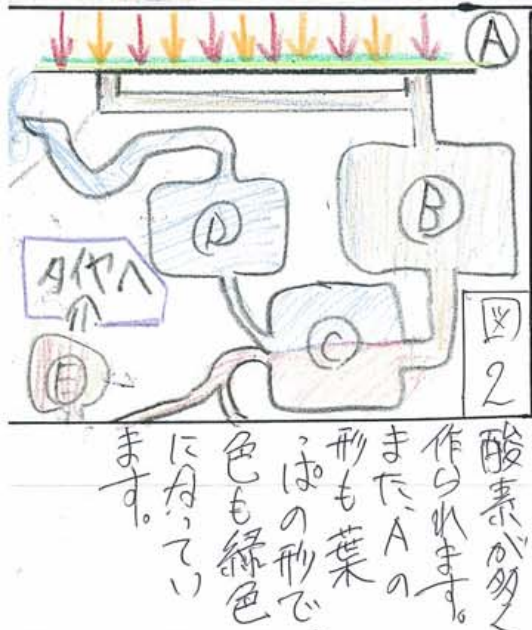
地球環境新聞

発行者
藤野隆青

光合成をする車誕生!?

図1の車を見て下さい。一見何も変わりぬ普通の車です。ね？車のからを見て分るようには実は環境のことを考えて作られた車なのです。

図1



どういふ仕組みになっているのかを説明しましょう。図2のAで日光を吸収します。次にDの部屋に行き、そしてCに行きます。ここで、酸素と他のエネルギーに変えます。そして酸素はDを通って外へ、他のエネルギーは、タイヤへ運ばれます。つまり、走るタイヤが長いほど酸素が多く作られます。また、Aの形も葉の形で、色も緑色になっています。

夜は走れるの？

ご心配なく。ちゃんと走れます。理由は、屋の間に全て使い切るのではなく、ちゃんとためておいてあるのです。夜でもしっかりと走れます。もし、昼の間にためられなくても、夜の明かりも吸収するので大丈夫です。

タイヤにも工夫がある

この車についている、タイヤには、ちゃんと面白い工夫がしてあります。普通の車のタイヤは回ります。が、この車のタイヤは歩くこともできます。す。す。(図3)なので、山道で、かけくずれがきつて道がきつが、たととしても平気です。それに、歩いたときも、乗り心地はよく、ガタがたしなないので、本当に楽です。

図3



地球温暖化防止に

現在、進行している地球温暖化の原因は、車などの二酸化炭素の排出によるものです。だが、この車は二酸化炭素を出さず、酸素を出します。なので、地球温暖化を防げるのです。また、このような車も、飛行機でも改善されたり、いいなあ、僕は思っています。